（7） び　　わ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 がんしゅ病 *Pseudomonas syringae* pv. *eriobotryae*	1.病枝を切り取る。 2.罹病部を削り取り、接ぎろうを塗布する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象にZボルドーを散布しているところでは、芽枯症の発生が少ない（3～5月）。 2.Zボルドー、ムッシュボルドーDF、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、炭酸カルシウム剤（クレフノン）を加用する。 3.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、幼果の横径約1cm以降の散布は避ける。 4.ICボルドー66Dは幼果期以降収穫までは使用しない。 5.ICボルドー66D、コサイド3000はびわ（葉）にも登録がある。	発病初期 2月上旬 ～3月上旬 7月中旬 ～9月中旬	M1 M1 M1 M1 24･M1 24･M1	コサイド3000 Zボルドー ICボルドー66D ムッシュボルドーDF （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
2 灰斑病 *Pestalotiopsis funerea* *P. neglecta* *Pestalotia eriobotryfolia* *Seiridium* sp. *Neopestalotiopsis* spp.	1.樹勢を強くし、日当りや通風を良好にする。 2.病葉を集めて処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にトップジンM水和剤を散布しているところでは、たてぼや病の発生が少ない。 2.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、炭酸カルシウム剤（クレフノン）を加用する。 3.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、幼果の横径約1cm以降の散布は避ける。	発病初期 3月中旬 ～4月中旬 7月中旬 8月中旬 9月上旬～下旬 11月中旬 ～12月中旬	1 1 12 M7 24･M1 24･M1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 セイビアーフロアブル20 ベルクート水和剤 （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
3 ごま色斑点病 *Entomosporium mespili*	1.病葉を集めて処分する。	発病初期	1 1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.園内の通風、採光を良好にする。 2.圃場の排水を良好にする。	発病初期	2 9 M7	スミレックス水和剤 フルピカフロアブル ベルクート水和剤
5 白紋羽病 *Rosellinia necatrix*	1.かんきつの紋羽病に準じる。	収穫後～開花前	29	フロンサイドSC
		収穫後 7月上旬 ～9月上旬	1	トップジンM水和剤
		開花前	6	フジワン粒剤
6 切り口及び傷口のゆ合促進		せん定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後	1	トップジンMペースト
7 鉢巻症 （生理的）	1.凍霜害を防止する。 2.防風垣を作り、寒風を遮る。 3.開花期の遅い品種を栽培する。 4.適地を選ぶ。			

びわ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 カミキリムシ類	1. ６～８月の成虫発生期に捕殺する。 2. 産卵期からふ化時に園内を見回り、幼虫を刺殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 園芸用キンチョールＥはクワカミキリに登録がある。	発生時	3A 3A	園芸用キンチョールＥ ロビンフッド
9 アブラムシ類	1. 下草、周辺雑草を処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 本虫対象に防除を実施しているところでは、チョッキリゾウムシ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類の発生が少ない。 2. ロディーくん煙顆粒は有袋栽培での登録である。	発生初期	1A 1B 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A	オリオン水和剤４０ マラソン乳剤 アディオン水和剤 スカウトフロアブル テルスター水和剤 マブリック水和剤２０ ロディー水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 モスピランＳＬ液剤
		ハウス内防除（くん煙）	3A	ロディーくん煙顆粒
10 ビワキジラミ	1. 葉裏に寄生した成虫やすす病の発生を目印として、早期発見に努める。 2. 作業性の良い低樹高化を図るとともに、摘房・摘蕾、花カス除去と合わせた摘果を実施する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 発生が多くなる開花初期（秋期）と袋掛け前（春期）の薬剤散布を基本とする。 2. 花芽基部などの隙間に隠れている幼虫は薬剤がかかりにくいため、秋期は摘房・摘蕾後に薬剤散布し、春期は摘果と花カス除去後に薬剤散布し、速やかに袋掛けをする。 3. 薬剤散布時の注意点 ・湿展性の高い展着薬剤を加用する。 ・樹の大きさに合わせた十分な散布液量とし、散布ムラの無いよう丁寧に散布する。	発生初期 ３月下旬 ～４月上旬 （袋掛け前） ７月中旬 ～８月上旬 （収穫後） ９月下旬 ～10月上旬 （幼虫発生期） 11月中旬 ～12月上旬 （開花中期）	1A 1B 3A 3A 4A 4A 4A 21A 23	オリオン水和剤４０ マラソン乳剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤 サンマイト水和剤 モベントフロアブル
11 ナシマルカイガラムシ （サンホーゼカイガラムシ）	1. タワシなどでこすり落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. アプロード水和剤の注意事項 ・カイガラムシ類幼虫に対する登録である。 ・使用時期に注意する。 2. マシン油の高温時の散布は薬害のおそれがあるので注意する。	５月下旬 ～６月中旬 （ただし 収穫終了後）	16	アプロード水和剤
		８～９月	UNM UNM UNM	スピンドロン乳剤 トモノールＳ ハーベストオイル
12 ナシヒメシンクイ	1. 冬期に樹幹にバンド巻きを行い、２月頃に取りはずして処分する。 2. 果実の袋かけを行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 本虫対象にパダンＳＧ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハマキムシ類、アブラムシ類の発生が少ない。	春芽伸長初期	14	パダンＳＧ水溶剤
13 ケムシ類	1. せん定時に卵がついている枝を切り取る。	発生初期	11A 11A 11A	デルフィン顆粒水和剤 エスマルクＤＦ ファイブスター顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

びわ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
14 ビワサビダニ （たてぼや病）	1.施設栽培では、夏季に天井のビニール被覆を除去する。	開花初期	21A 21A	ダニトロンフロアブル サンマイト水和剤
15 ハダニ類	1.カンキツ、ナシ等他の好適な寄主植物から移動する場合が多いので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンマイト水和剤はミカンハダニに登録がある。 2.ビワは新しい葉に毛茸が多く、薬液が付着しにくいので、十分量を散布する。	発生初期	21A 21A	ダニトロンフロアブル サンマイト水和剤
16 カメムシ類	1.早期に袋掛けを行う。 2.施設栽培では、開放口をネット（４ｍｍ目合以下）で覆う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.果実への寄生が認められる場合は、直ちに薬剤散布を行う。 2.成虫は山林原野から夕方に飛来し、夜間加害するので、防除は夕方に一斉に行う。 3.周辺にスギ、ヒノキ等の多い園や、過去に被害の認められた園では特に注意する。 4.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	４月上旬～６月	3A 3A 4A	テルスター水和剤 ロディー水和剤 アドマイヤーフロアブル